

(2020)緑区フォトコンテスト

大賞

「闇を駆ける」 神谷 佳吾



薄暮の有松天満社参道の踏切で、名鉄電車が通過する瞬間を狙った一枚である。夕暮れの何気ない踏切の情景に釘付けとなった。すぐ思いつく観光スポットや公園ではなく、昔からの街並みの片隅にある、どちらかと言えば日常の場所と、人々の生活に密着して日々走る赤い名鉄も、緑区のグッとくるところなのだと、私だけでなく審査員皆が再発見した。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 吉永 陽一先生)

会長賞

「名二環」 岡本 邦弥



暗い写真の多い中、高速道路の遮音壁を白銀の昇り龍に見立て、緑区のランドタワーの給水塔・消防署の望楼、さらに雪をかむった御嶽を配した構図は素晴らしく、まさに、さらに開けゆく緑区を象徴する1枚である。且つ、御嶽がこれだけきれいに見られることは少なく、作者の着眼点の素晴らしさと忍耐力が忍ばれる。

(緑区観光推進協議会 会長 柘植 佑好)

区長賞

「大木」 井上 来望



下からのアングルで根を活かした構図は、幹の縦ラインと地(茶)・空(青)・葉(緑)のバランスが絶妙。子どもが幹に抱きつくことでストーリー性が膨らみ、さらに渋めのトーンと相まって映画のワンシーンのような雰囲気醸し出している。日本の風景でないみたいで、思わず「ここは緑区の何処だろう？」と探しに行きたくなります。

(緑区長 菊池 文泰)

シグマ賞

「夫婦水入らず」 大村 丈彦



ハイアングル・雨どいのシルエット

道の流れ、人の動き生かした1枚。静かな有松をうまく表現している。御夫婦の距離感もいい。つかず離れず。長年連れ添った年輪と古い街の風情がこのスクエアの中に生かされている。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生)

ソニー賞

「神の遣い」 西田 五徳



神社の手水舎。趣きがあり荘厳で清らかな空気が伝わってくる写真です。社の提灯のボケ感と龍の顔とのマッチングがこの写真の魅力です。

荘厳さを表すため雅な色合いに出ているのが良いと思います。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生)

審査員特別賞

「夜のさんぽ」 成瀬 裕美



ローアングルの素敵な作品

構図がいい。少しの道と何気ないフェンスがある種の壁に見えるのは私だけであろうか？照明とバックショットで散る桜の加減はBEST。幻想的で、雰囲気もありしっかりと伝えられる作品。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生)

「恐竜と遊ぶ」 矢田 徳夫

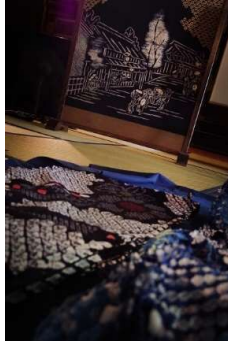


不思議な作品。加工写真ではあるが、インパクトがあった。恐竜と人の流れが絶妙。多重露光的な作品。デジタル社会ならではの表現力。CGでもない現実離れた作品。これからの期待したいな！！

(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生)

入選（講評は全て公益社団法人日本写真家協会 会員 吉永 陽一先生）

「歴史ある紋りと街道」 浅井 延子



斜めの画角はさじ加減が難しいが、程よい角度で有松紋りと街並みの絵をクローズアップして、この街の良さを表している。

「恐竜の棲む丘」 河内 聡



目線を下げ縦位置にし、周囲を切り取り、恐竜が置物ではなく生きているように見せているのが面白い。

「畏怖」 羽根 靖二



少年の目線になると天狗様も大きく異様に見え、まさに畏怖してしまう。子供は天狗様に驚いているのかと想像しちゃう、そんな一枚だ。

「お寺に明かりが灯る頃」 伊藤 かほり



薄暮の空と雲の流れを意識し、夜の迫る時刻の寺の表情を表している。ローアングルで流れる雲を捉えるのも、寺の迫力が伝わってくる。

「まずはお手本」 猪島 伸彦



恐竜広場で遊ぶ園児と先生。子供たちが後ろ姿でも動きをよく捉え、先生に向けての歓声が聞こえてきそう。

「掌の年輪」 岡田 哲



長年有松紋りに携わってきた職人の手を白黒で表現することで、紋りの技の所作に深みが増した。

「ハロウィン騎士、ディノアドベンチャーへ」
神戸 晴香



恐竜をモチーフにして、騎士に仮装した少年が大高緑地の恐竜へ挑むその姿が凛々しく、ストーリー性があった。

「有松の街かど」 田中 博



赤い蕾を差し色にして、周囲を思い切って切り取ることで、有松の街かどの渋さが引き立ってくる。

「夜を駆ける」 園田 翼



縦横に交差する高架橋と車の光跡、複雑な名古屋南ジャンクションを迫力かつ端的に切り取って表している。

「いざ！ 桶狭間へ」 谷本 英一



木彫りの像の気迫と、背景となる境内の静けさ。動と静だけでなく、門の中も意識し、バランスよく一枚に収めている。

2021 緑区フォトコンテスト

大賞

「天狗の加護を」 西田 五徳



有松天満社の守り神の天狗様。背が高く、撫でてもらうと、お利口さんになったり、厄除けや無病息災になるそうです。インパクトのある天狗様に挟まれても物おじせず、興味津々のお子さん。それもそのはず。お子さんの視線は天狗様の胸元。中の方の顔に気づいて覗いているのかな。だから怖くないのですね。よく見ると左の天狗様の中の方と目が合います。とても微笑ましいスナップ写真。計算して撮れない写真だからこそ、日常の自然なニュアンスが伝わります。面白いだけでなく、青々とした緑と真っ赤な着物が対照的に美しく、そして、よくぞ天狗様とお子さま以外の方の顔が向いていない瞬間を撮りました。そのため、中心の子どもに視線を集められました。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 安珠先生)

会長賞

「建物と雲のコラボ」 永治 実



動かない建物をいかにも躍動感のある長い車両のように見せると共に、中央に青空と永遠に続くように見える道路を配置し、地下鉄のターミナルを示すと共に末永く続く緑区を象徴する 1 枚と思われる。

(緑区観光推進協議会 会長 柘植 佑好)

区長賞

「日向ぼっこ」 山田 修



春に有松で行われる福よせ雛。多くの人形が飾られているなかで、瓦に並ぶちょっと風変わりで楽しげなこの人形をよく見つけた。いぶし銀の瓦、少し影になった壁を背景に赤い人形が映え、葉の緑、青空も綺麗。光の当たり方もよく人形の表情をはじめ立体感が感じられる。他にどんなポーズ、表情の人形が飾られているのか、有松へ探しに行きたくなる。(緑区長 新庄 徹)

ソニーストア名古屋賞

「達磨の合唱」 栗野 将徳



こんなに「だるま」があるなんて！赤がきれいです。インパクトはばっちり。緑区の新名所になるのではと思います。表情が豊かな「だるま」が並ぶと受験や必勝祈願の名所になるかもですね。(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修)
達磨が沢山あるという感じが凄く出ていると思います。奥行き感がしっかり出ていてよいと思います。達磨が一方向を向いており、指揮者に向いていて合唱しているかのように見えてよいと思います。この沢山の達磨を見にこの場所に行ってみたいと思える写真です。(ソニーストア名古屋 井上様)

審査員特別賞

「若き家族を見守る神域」 猪島 伸彦



緑区内のおなじみの神域を色彩を排除する事で日常を非日常の空間に置き換えた作者自身の感性が素晴らしい作品です。写真の表現の中には、いろいろな方法論が有ります。作者が選択したモノクロームの中でもノーマルな処理では無く赤外線の効果を活かした表現は作者のテーマを十分に伝えられる効果を持った表現だと思っています。(公益社団法人日本写真家協会 会員 三浦 誠先生)

「くつろぎの丘」 谷本 英一



『滝の水公園』の写真が一番多くの応募がありました。その中でもこの作品は、引きで見せていて、暮らしの中に公園が憩いの場所としてあることがわかります。家族連れや友人同士、犬の散歩の方など、それぞれの想いで公園から夕景を眺めています。左に木を入れたことで、空の広さが伝わり、この公園の雄大さを表現しています。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 安珠先生)

「息を潜めて」 日比野 太志



いかにも古代に戻って生きている恐竜たちを見てるような作品。緑区の大高緑地だと思いますが、よく見つけたアングルだと思います。想像力がいいですね。どこにもある人形や生き物をモチーフにしたモニュメントには撮り方によって命を与えることができるのも写真です。

(公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生)

入選（講評は全て公益社団法人日本写真家協会 会員 石川 裕修先生）

「ひとやすみ」 山野辺 杏菜



愛らしい作品。緑区の情景と子供の表情がマッチしています。欲を言えば左の紙張りを避ければ、尚 OK。

「No rain.No rainbow」 永井 武志



有松と虹よくとらえました。街道のこの位置に虹がかかる写真は珍しいと思います。タイトルを少しひねればもっといい。

「よってって南大高」 加藤 真也



南大高の何気ない夕景でも雲と街並み、人の流れがいいですね。何気ない街もチャンスさえ狙えば作品になります。街の写真のお手本に近いです。

「天白川のマジックアワー」 村上 勝治



川の深い青・薄暮の青空・夕日の赤い色、天白川の風景きれいです。探してみればまだあるのですね、こんなきれいな場所。幻想的で素敵な写真です。

「秋の愛知用水」 安川 強



緑区の秋の風情を見つけました。青い秋空がきれい。すすきとのマッチもいいですね。有名どころではなくて、見つけ出し写真で表現するいい写真です。

「祭りの日」 谷口 緑理



祭りの雰囲気が出ています。色合いもいい。奥の人がこの写真のキーポイント。いなければ、単なる記録ですが、鳥居と人のシルエットがこの写真を引き締めています。

「実り」 足立 大



緑区には歴史的な神事があるのだとわかる作品です。アングルを変えればもっと強調できる。

「滝の水の穴」 樋口 健一



滝の水公園のモニュメントを効果的に使った作品ですね。参加作品の中にも多くありましたが、この光の加減が抜群でした。

「街道散歩」 葛島 義隆



緑区の有松の路地での一枚。矢印と散歩する風景が逆なのがまたいい。単なる路地から生きてる町へ協調できる作品です。

「お雛様の住むお蔵」 河内 聡



よく見つけました！素晴らしい。いるんですよね！こういうところに。不思議な作品ですが、撮る前に被写体を探す能力も写真です。